

2026年2月10日

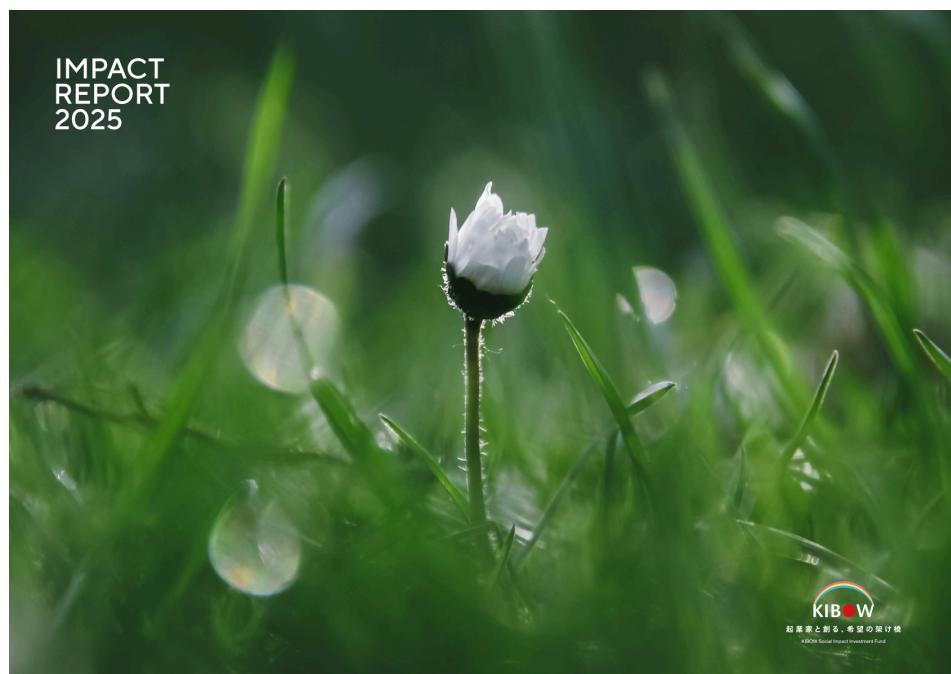
一般財団法人KIBOW

ニュースリリース

KIBOW社会投資ファンド、「IMPACT REPORT 2025」を発行！社会的インパクトの成果や出資者の声、社会起業家の「志」の源泉に迫る特集も掲載

一般財団法人KIBOW(東京都千代田区、代表理事：堀義人、以下KIBOW)が運営する「KIBOW社会投資ファンド」は、2026年2月6日、当ファンドおよび投資先企業の社会的インパクトに関するレポート「IMPACT REPORT 2025」を発行しました。社会的インパクトの成果に加え、インパクトレポート発行の意義や出資者の声、社会起業家の「志」の源泉に迫る特集も掲載しています。本レポートは、下記URLからデータ版をご覧いただけます。

■IMPACT REPORT 2025 (URL:https://glob.is/kibowimpactreport_2025)



■「IMPACT REPORT 2025」発行の目的

「IMPACT REPORT 2025」は、持続可能なより良い社会へ向けたこれまでのKIBOWの貢献と、そこから得られた知見を共有する目的で発行されました。当ファンドと投資先企業が共に目指す理想の社会のビジョン、それを実現するための道筋と対象とする社会課題、具体的な取り組み、現在の進捗状況を報告しています。

KIBOWは本レポートを通じて、投資活動による社会的インパクトの可視化と情報発信の強化により、社会的インパクトのさらなる拡大を目指します。また、日本における社会的インパクト投資^{*1}の発展に貢献することを目指します。

*1 貧困や差別、環境、教育、福祉などの社会的な課題の解決を図るとともに、経済的な利益を追求する投資行動



■「IMPACT REPORT 2025」の内容

本レポートは、当ファンドのビジョン・ミッションや、社会変革に向けた道筋(セオリー・オブ・チェンジ)、ハイライト、投資プロセスと判断基準、投資先企業に関する情報、特集記事などで構成されています。投資先企業に関する章では、企業が向き合っている社会課題や事業概要、社会的インパクト実現に向けた道筋や主要成果指標(KPI)などを紹介しています。

また、本レポートでは、3つの特集記事を掲載しています。

1. インパクト・スタートアップが語るインパクトレポート発行のリアル

投資先であるライトライト(取締役COO 齋藤めぐみ氏)とガクシー(代表取締役 松原良輔氏)が、インパクトレポート発行による「社員のベクトル統一」や「自治体連携の強化」といった意義を語ります。

2. 出資者が語るKIBOW社会投資ファンド—社会インパクトへの手応えと、今後への期待

10年間にわたり資金面からファンドを支えてきた3名の出資者であるAllen Miner氏(サンブリッジ 代表取締役会長兼グループCEO)、寺田航平(寺田倉庫株式会社 代表取締役社長)、そしてKIBOW代表理事の堀義人が登場。出資者の視点から、社会的インパクトに対する評価と今後の期待を述べています。

3. ソーシャルアントレプレナーの「志」の源泉に迫る

カケミチプロジェクト(代表取締役 岡琢哉氏)、GOOD COFFEE FARMS INC(代表取締役 Carlos Melen 氏)、ラポールヘア・グループ(代表取締役 早瀬渉氏／取締役 渡邊さやか氏)ら社会起業家が、自身のバックグラウンドと社会課題解決に立ち上がるまでの「シンクロニシティ(意味のある偶然)」について掘り下げています。

今後は本レポートに関連したイベント開催などを通じて、社会的インパクトのさらなる拡大と、インパクト投資の発展に貢献してまいります。

■KIBOW社会投資ファンド実績(2025年12月末時点)

KIBOWは、「社会課題を解決し希望を生みだす起業家とともに、事業を創造し社会を変革する」というミッションのもと活動しています。2015年9月にKIBOW社会投資ファンドを設立以来、累計投資金額10.17億円(追加投資含む)、呼び水効果^{*2}21.62億円を創出し、累計28件の投資、EXIT3件、インパクト・スタートアップの事業成長を支援してまいりました。

KIBOW社会投資ファンドでは投資にとどまらず、起業家に伴走しながら「ヒト・カネ・チエ」の3つの流れを創ることで、事業づくりと社会的インパクト創出の両面から支援する“支援型ファンド”として、社会の創造と変革の加速を目指しています。

*2 KIBOW がリード投資した案件に対する協調投資及び他社追加投資の累計金額。なお、2023 年度のレポートでは、協調投資、他社追加投資、融資及び助成金の概算額としていました。

ハイライト

Highlight

⌚ Capital カネ

累計投資件数（追加投資を含む）

28 件

累計投資金額（追加投資を含む）

10.17 億円

呼び水効果（*1）

21.62 億円

EXIT 件数

3 件

👤 People ヒト

起業家ダイバーシティ比率（*2）

30.0%

投資先人員増加数（*3）

449人

(*1) KIBOW がリード投資した案件に対する協調投資及び他社追加投資の累計金額。なお、2023 年度のレポートでは、協調投資、他社追加投資、融資及び助成金の概算額としていました。

(*2) KIBOW 投資先の起業家のうち、女性、LGBT、外国人、障がい者などマイノリティの比率

(*3) KIBOW 投資後に投資先において増加した経営陣（KIBOW 派遣社外取締役を含む。）及び従業員の数

■KIBOW社会投資ファンドとは

KIBOWは、2011年3月の東日本大震災を受け、復興を支援するために立ち上りました。2011年のプロジェクト立ち上げ以降、継続的に支援を続けるため一般財団法人化し、さらに被災地だけではなく広く日本に貢献するために、2015年9月にKIBOW社会投資ファンドを設立しました。KIBOW社会投資ファンドは、「社会課題を解決し希望を生みだす起業家とともに、事業を創造し社会を変革する」というミッションを掲げ、社会起業家を対象とした社会的インパクト投資を実施しています。設立から10年間で合計22社のスタートアップ企業に投資を行っており、現在は「KIBOW社会投資ファンド3号」（総額10億円）を運営しています。未知・未解決の社会課題にも挑戦し、社会的インパクト投資を通じて社会課題の解決を加速させてています。

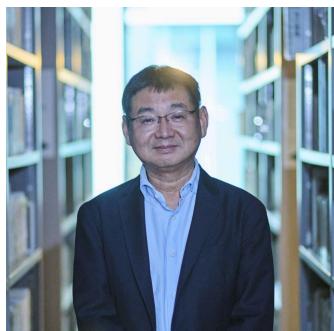
KIBOWはこれからも、社会課題を解決し希望を生みだす起業家とともに、事業創造と社会変革を導いていきます。

■KIBOW社会投資ファンド 代表パートナー 中村 知哉・中山礼二からのメッセージ

社会課題の解決は一社だけで成し遂げられるものではなく、起業家の挑戦、出資者の意志、そして多様な仲間の知恵や支援が重なり合うことで、はじめて前進していくものだと感じています。

「IMPACT REPORT 2025」では、成果や数値だけでなく、実践の中で生まれた葛藤や学び、そして次の挑戦につながる“意志”までを、余すところなくまとめました。特に3つの特集からは、出資者、投資家、起業家、それぞれの「志」がつながり、連鎖反応を起こす様子を感じていただければ幸いです。

本レポートが、社会的インパクト投資に関わる皆さまの視野を広げ、新たな連携や一歩を後押しするきっかけとなれば幸いです。今後も情報発信と対話の場づくりを通じて、社会的インパクトのさらなる拡大に取り組んでまいります。



KIBOW 社会投資ファンド代表パートナー 中村 知哉



KIBOW 社会投資ファンド代表パートナー 山中礼二

◆KIBOWについて(<https://kibow.jp/>)

東日本大震災の3日後に始動した救援・復興支援プロジェクト「Project KIBOW」は、「希望」と「Rainbow」から命名しました。長期的に被災地を支援していきたいという想いから、2012年2月に一般財団法人化し、以下の活動を行ってきました。

現在は、被災地に限定せず、全国の「社会を変える」志を持った社会起業家たちに投資し、事業の規模化を支援する「社会的インパクト投資」を中心に活動しています。

1)「場」の提供(イベント)

被災地各地で、地域の復興を願う人たちが集まる「場」を作っています。地域の内外のリーダーたちが集まり、交流を生むイベントを定期的に開催しています。

2)寄付

これまで、約1400名以上の方々にご協力いただき集めた資金約1億円を、被災地で活動しているNPOや各地のリーダー達に提供しています。

3)社会的インパクト投資(KIBOW社会投資ファンド)

2015年9月にKIBOW社会投資ファンドを設立、これまで合計22社のスタートアップ企業に投資を行いました。現在は「KIBOW社会投資ファンド3号」(総額10億円)を運営し、未知・未解決の社会課題にも挑戦し、社会的インパクト投資を通じて社会課題の解決を加速させています。

■本リリースに関するお問い合わせ先

グロービス 広報室 土橋涼

E-mail: pr-info@globis.com